

# 福岡市学校規模適正化 検討委員会

## 第 1 回 会議資料

福岡市教育委員会

福岡市学校規模適正化検討委員会  
設置要綱について

# 検 討 委 員 会 設 置 要 綱

## (目的)

第1条 児童生徒数の減少に伴い、福岡市立小・中学校(以下「学校」という。)の小規模化が進行する中で、**学校生活、学校運営に関する諸問題を調査し、学校の適正規模、適正配置等について検討する**ため、福岡市学校規模適正化検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

## (所掌事項)

第2条 委員会は、**福岡市立小・中学校の規模及び配置の適正化に関する基本的な考え方と、適正化に向けた具体的な方策について検討し、提言する。**

## (委員)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者のうちから、教育長が委嘱又は任命する委員15名以内をもって構成する。

- (1) 福岡市議会代表 4名
- (2) 民間代表 1名
- (3) 地域代表 3名
- (4) 保護者代表 2名
- (5) 学識経験者 3名
- (6) 学校代表 2名

## (任期)

第4条 委員の任期は、原則として提言までとする。

(組織)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は委員会を代表し、委員会を主宰する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

(意見の聴取)

第7条 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見または説明を聞くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会総務部学校計画課において行う。

(実施の細目)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が 委員会の意見を聴いて別に定める。

附 則

この要綱は平成20年5月1日から実施する。

## 福岡市学校規模適正化検討委員会委員名簿

〈敬称略〉

氏 名	役 職 名	備 考
今林 秀明	福岡市議会議員	
阿部 正剛	福岡市議会議員	
三角 公仁隆	福岡市議会議員	
野尻 旦美	福岡市議会議員	
竹下 輝和	九州大学大学院人間環境学研究院教授	
元兼 正浩	九州大学大学院人間環境学研究院准教授	
吉岡 直子	西南学院大学人間科学部教授	
安武 健一	福岡青年会議所専務理事	
原田 陽次	福岡市自治協議会等7区会長会会長	
江下 雅陽	福岡市子ども会育成連合会副会長	
仲里 美佐子	福岡市青少年育成連絡会会長	
福原 京子	福岡市PTA協議会副会長	
多比良 啓子	福岡市PTA協議会副会長	
竹内 義子	福岡市立小学校長会副会長	
高濱 文子	福岡市立中学校校長会副会長	

# 議題 3

検討委員会のスケジュールについて

## 検討委員会のスケジュール

7月	第1回	本市の現状と課題, 先進的事例の分析, 学校規模適正化の基準	
	第2回		
8月	第3回		
	第4回		中間まとめ(第1回～第3回の議論を総括)
9月	第5回		適正化の進め方, 留意点の整理, 事例を使用した基準の検証
10月	第6回		
11月	第7回		
12月	第8回		「最終報告」とりまとめ

# 議題 4

福岡市の人口推移について

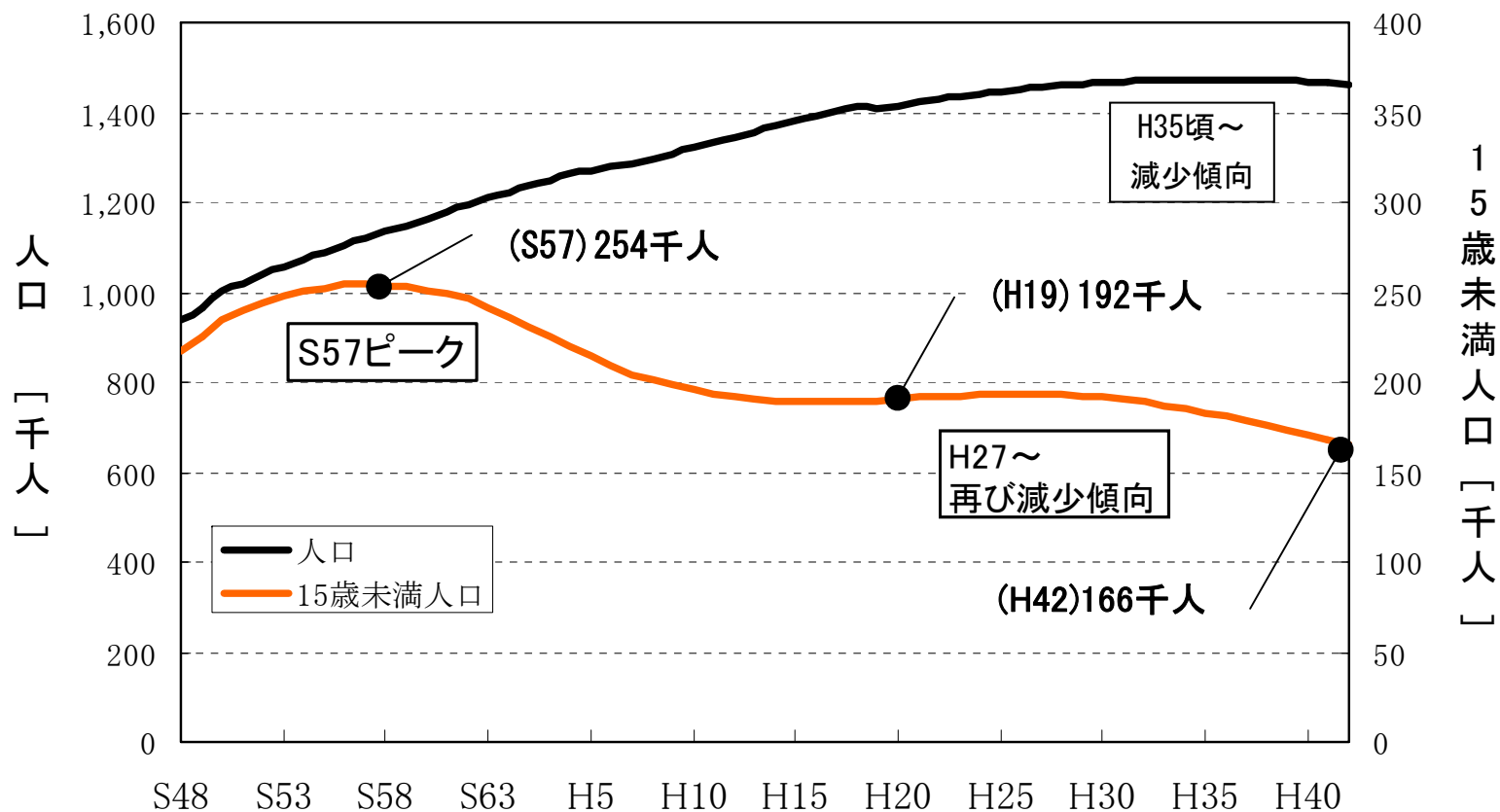


## 福岡市の人口推移

○福岡市の人口は平成35年頃をピークに減少に転じる

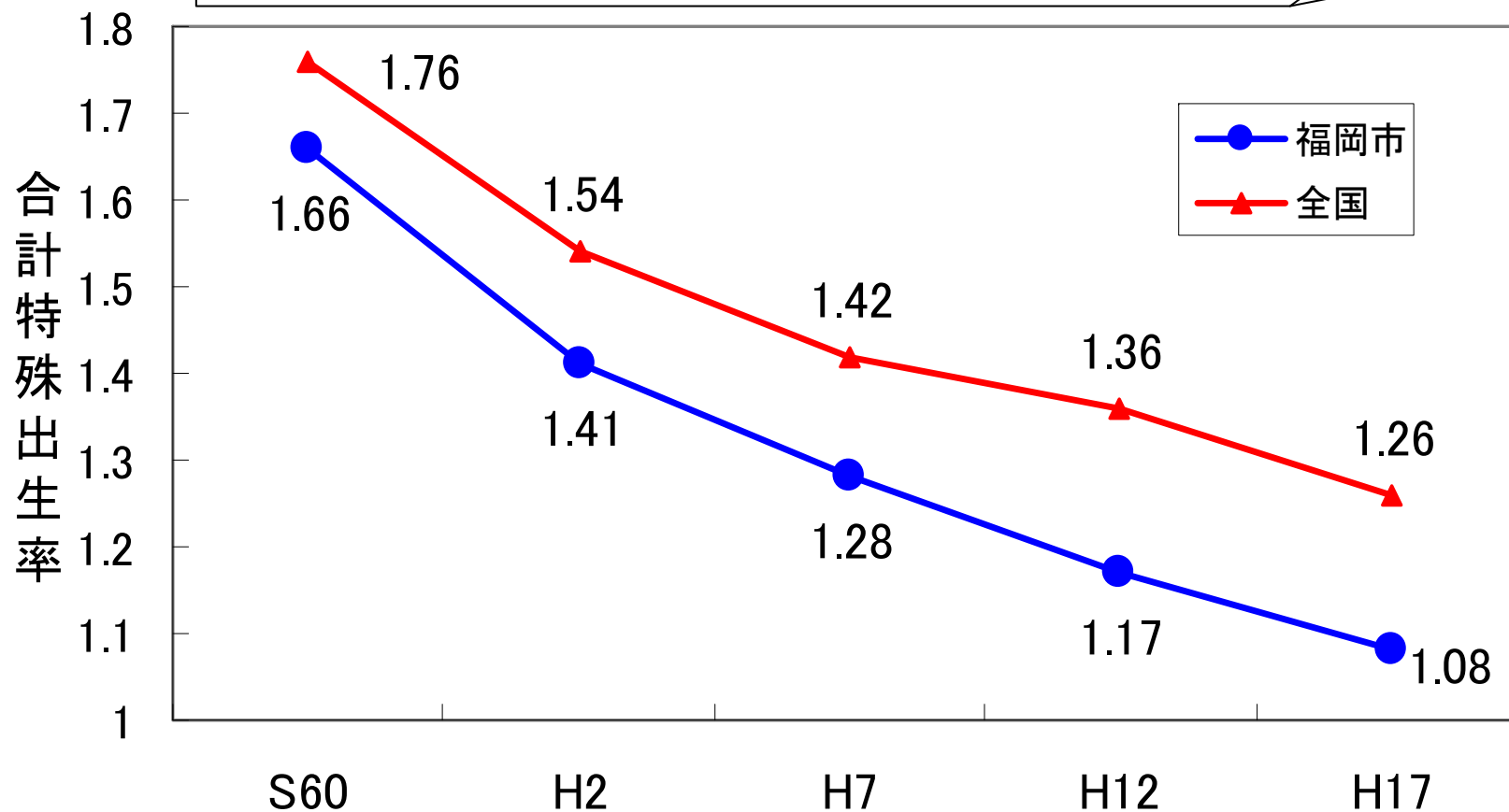
○15歳未満の人口は昭和57年をピークに減少傾向

→現在は横ばい状態にあるものの、平成27年からは、再び減少に転じる見込み



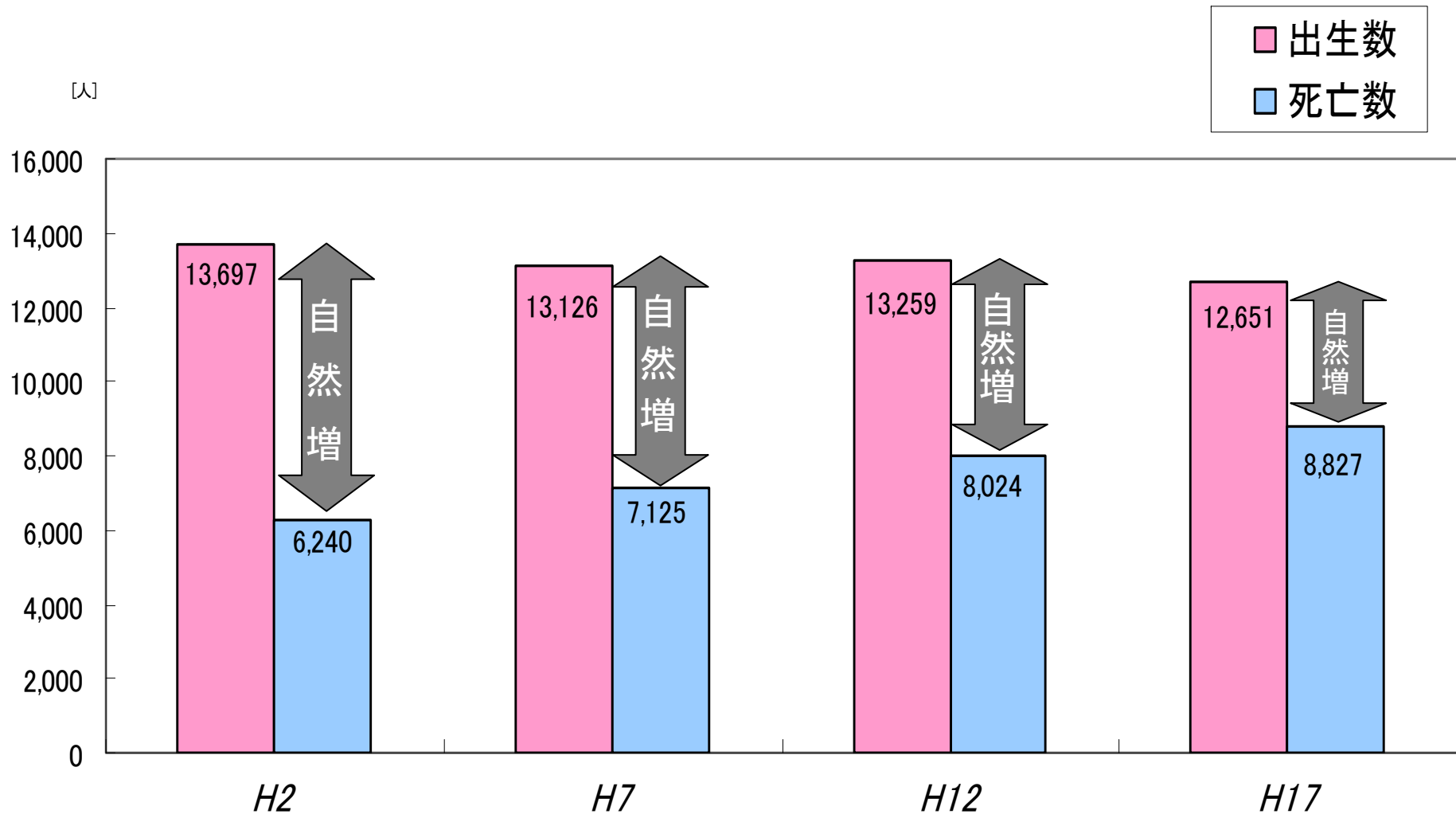
## 人口推移の背景 ①

○晩婚化・未婚率の上昇等により、合計特殊出生率(※)が減少  
(※)一人の女性が一生の間に出産する子どもの数  
←人口を維持するために必要な水準:2.08  
○全国値との差も拡大している状況



出典:一般人口統計(国立社会保障・人口問題研究所)

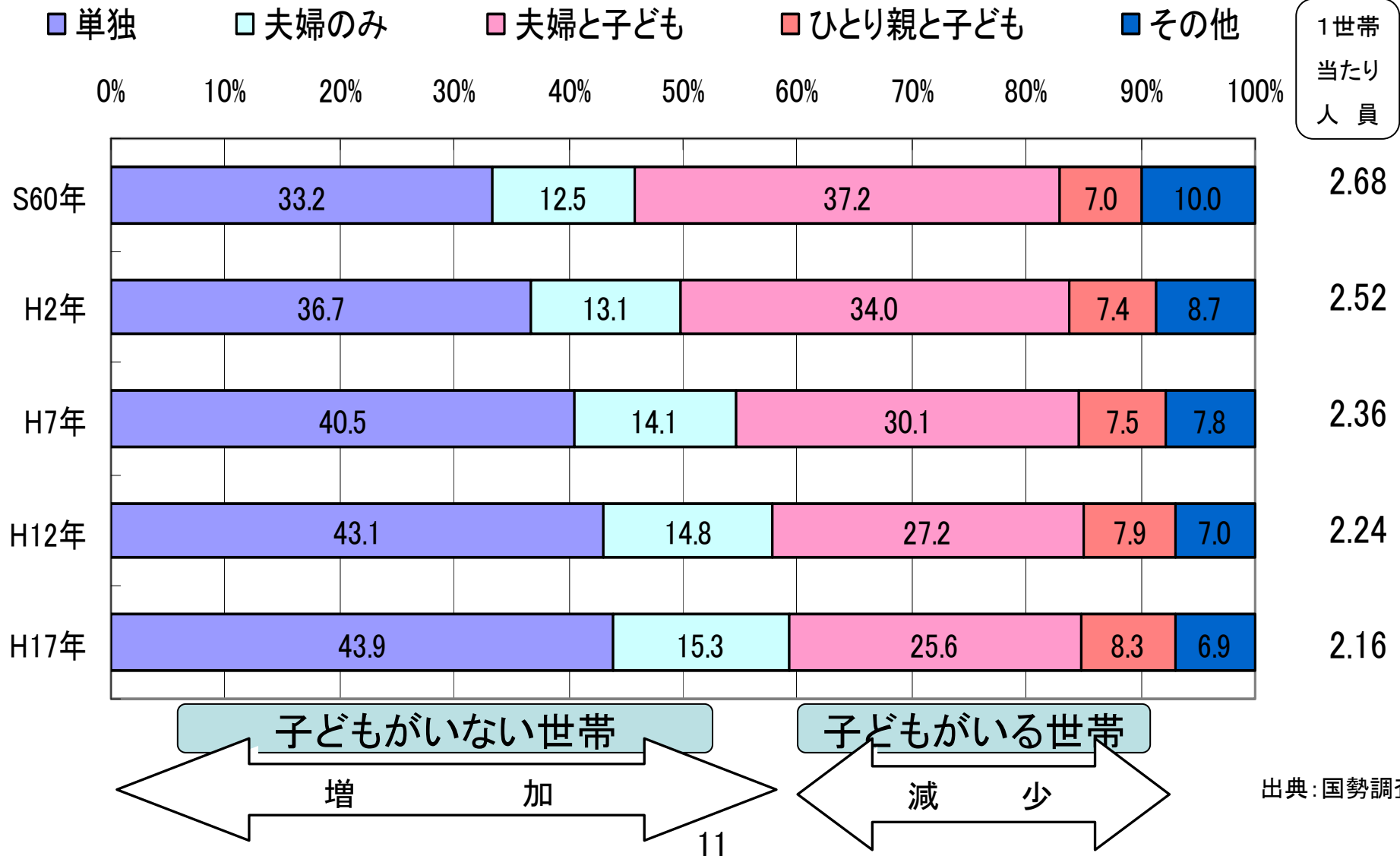
- 出生数と死亡数の関係で表される自然動態は、出生数が死亡数を上回っている状況にあるが、増加幅は小さくなりつつある。



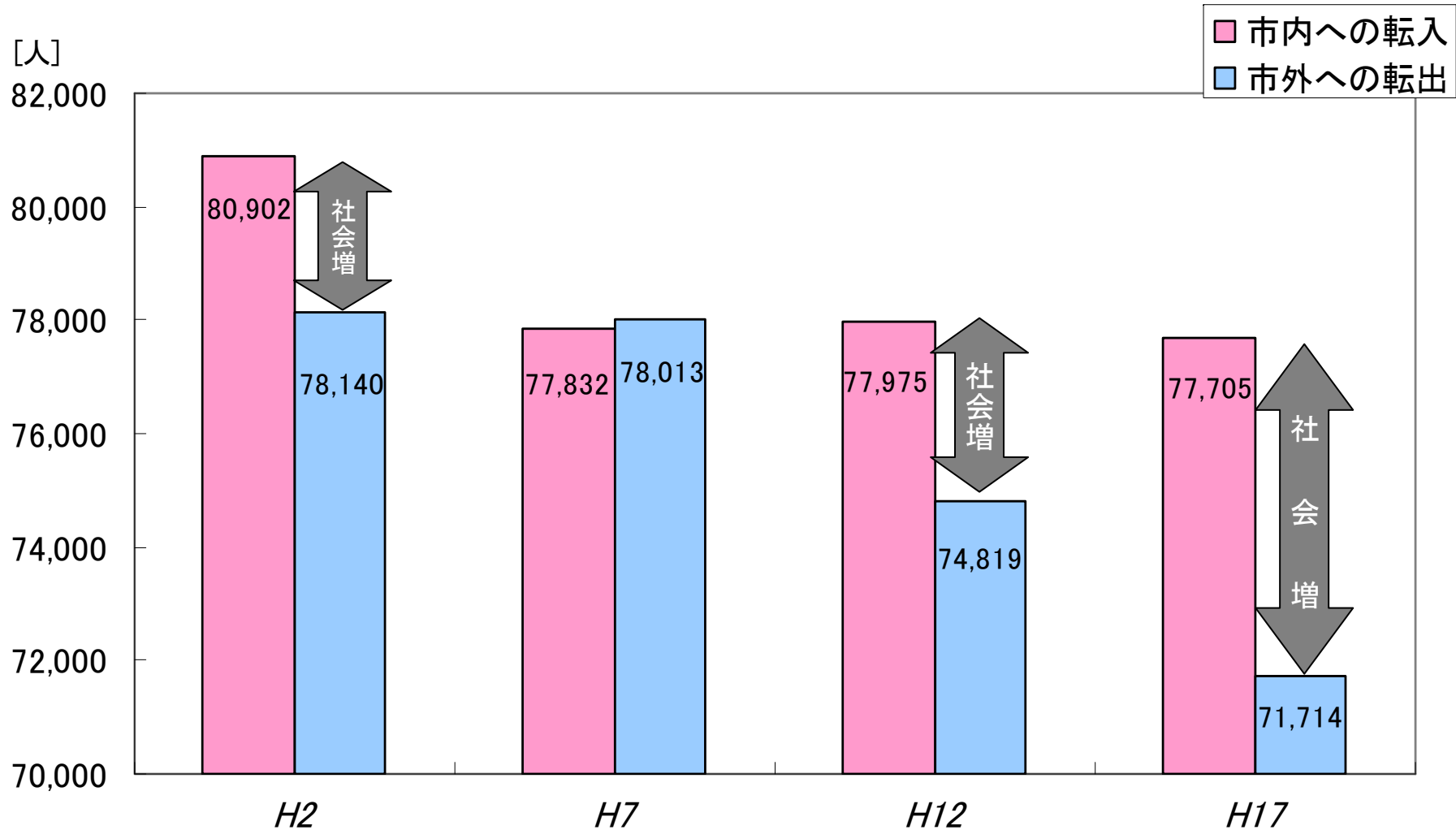
出典：福岡市統計書

# 人口推移の背景 ②

世帯構成の変化：単独世帯の割合が増加し、子どもがいる世帯が減少

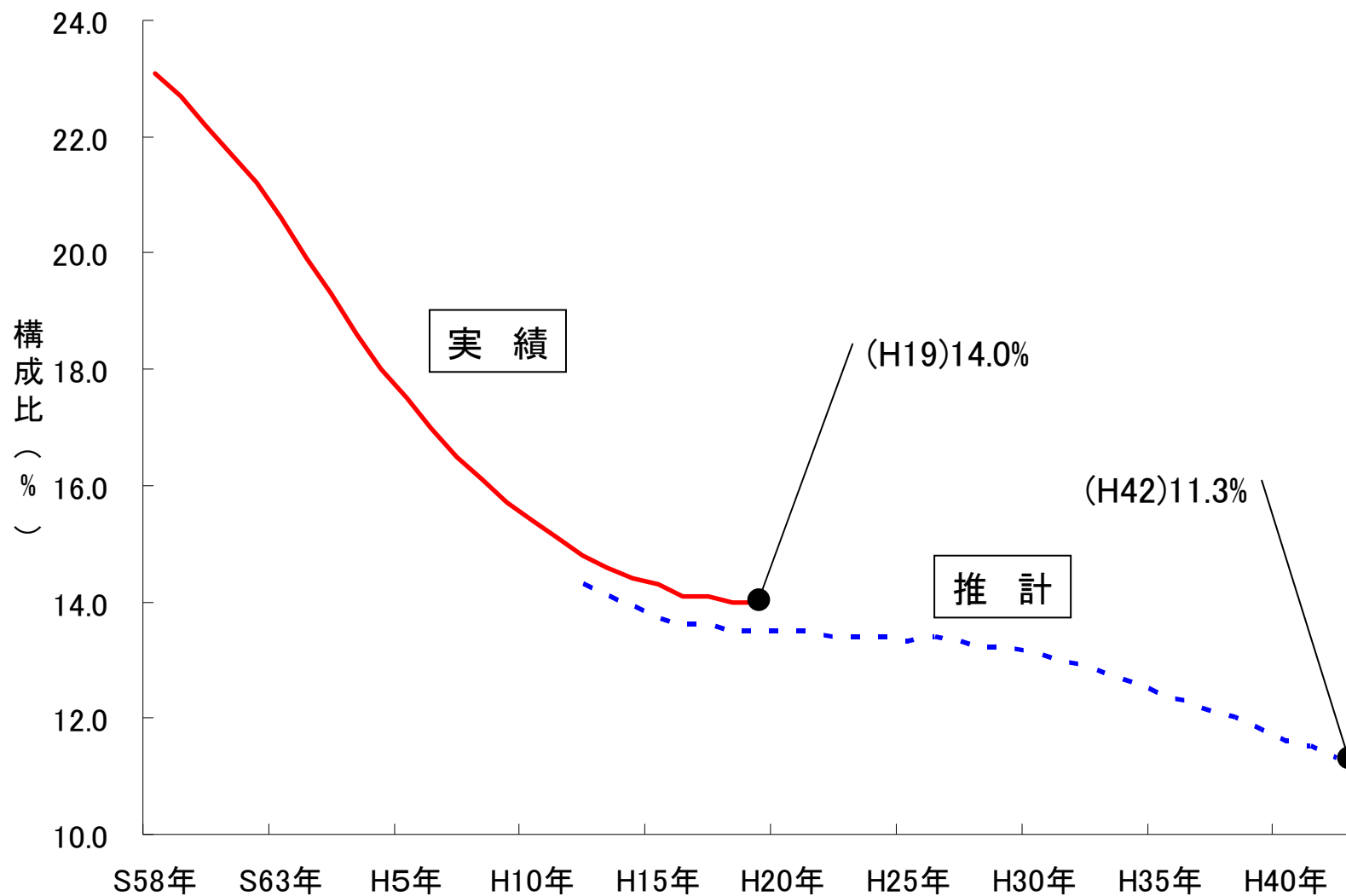


市外との転入・転出で表される社会動態は、転入が転出を上回っている状況にある。



出典：福岡市統計書

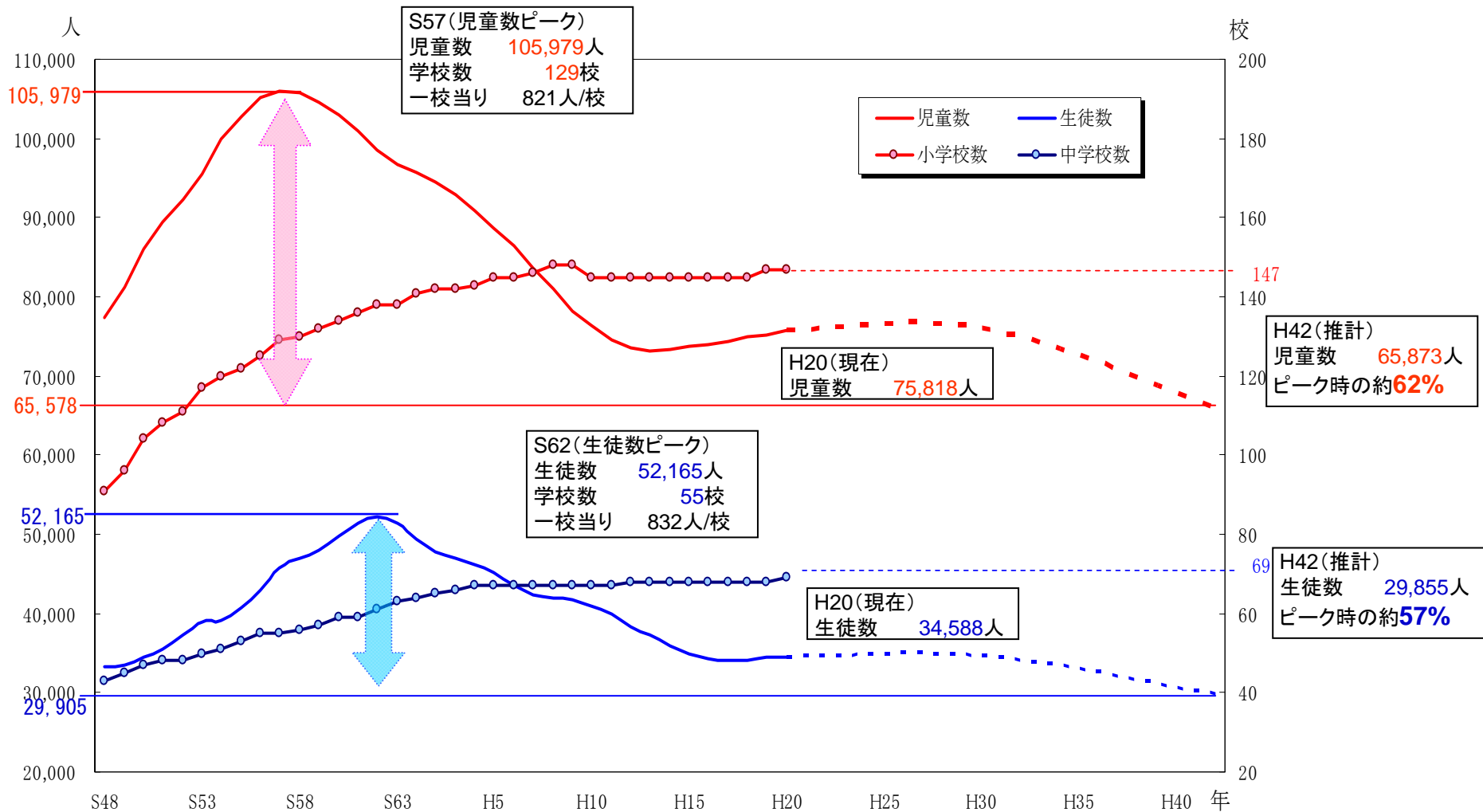
## 15歳未満人口の総人口に占める割合の推移



出典:福岡市統計書, 福岡市の将来人口予測

児童生徒数と学校規模  
の現状について

# 福岡市の児童生徒数と学校数の推移



出典:福岡市教育統計年報, 福岡市の将来人口予測



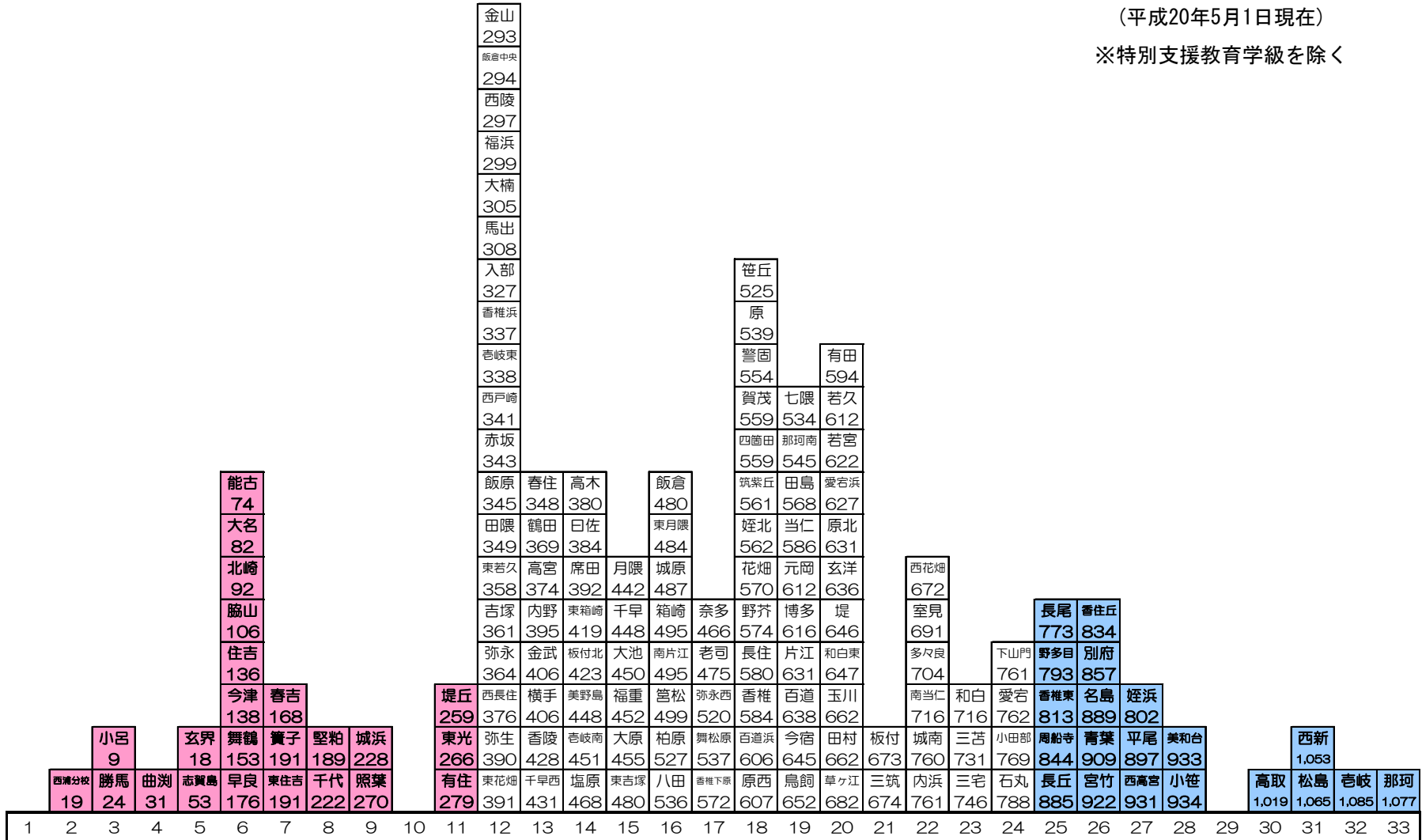
## 学 校 規 模 に つ い て

※法令等では、学校の規模は学級数に応じて以下のように区分される。

	1～11学級	12～24学級	25学級～
小学校	各学年：1～2学級	各学年：2～4学級	各学年：4学級～
中学校	各学年：1～4学級	各学年：4～8学級	各学年：8学級～
	<b>小規模校</b>		<b>大規模校</b>

# 規模別の学校一覧(小学校:147校)

(平成20年5月1日現在)  
 ※特別支援教育学級を除く

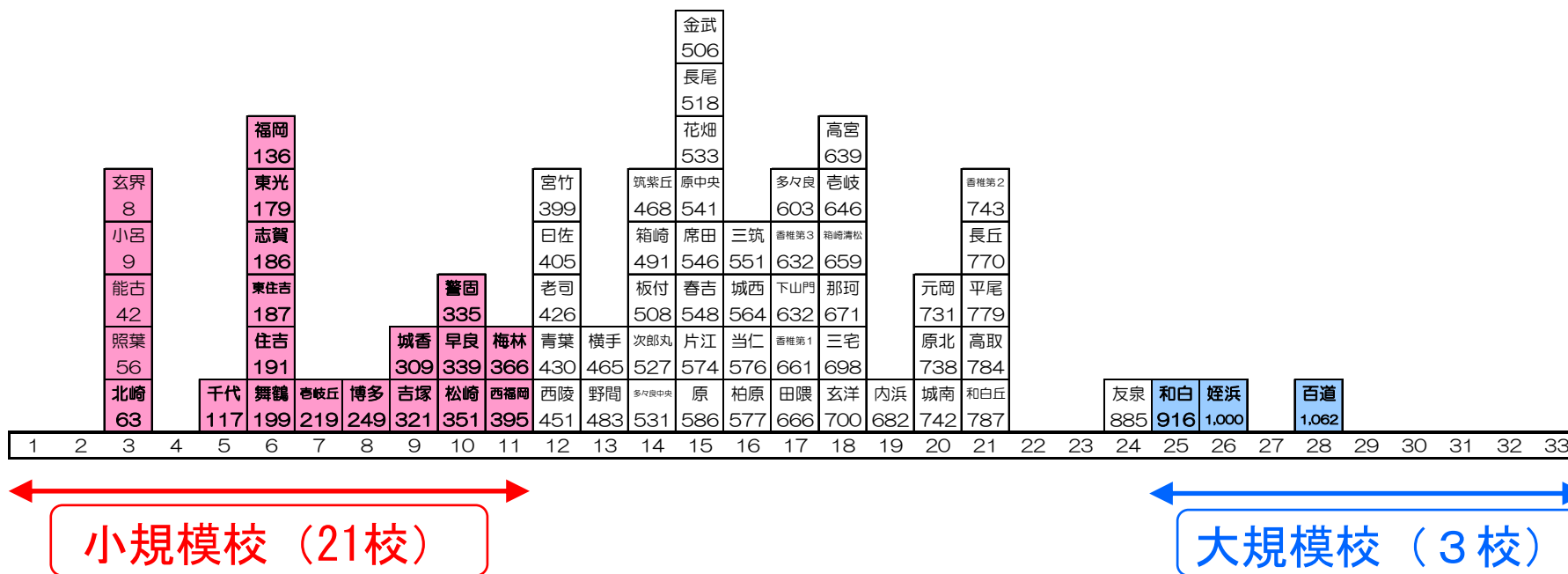


小規模校 (24校)

大規模校 (20校)

# 規模別の学校一覧(中学校:69校)

(平成20年5月1日現在)  
 ※特別支援教育学級を除く



# 小規模校の学級編制(小学校)

上段 児童数  
下段 学級数

(平成20年5月1日現在)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
小呂小	1	2	0	2	1	3	9
	1		0	1		1	3
勝馬小	1	7	1	6	4	5	24
	1		1		1		3
曲淵小	8	4	8	4	4	3	31
	1	1	1		1		4
玄界小	0	2	4	4	4	4	18
	0	1	1	1	1	1	5
志賀島小	9	3	8	7	14	12	53
	1		1	1	1	1	5
能古小	13	8	11	14	14	14	74
	1	1	1	1	1	1	6
大名小	9	20	7	14	17	15	82
	1	1	1	1	1	1	6
脇山小	18	18	15	18	17	20	106
	1	1	1	1	1	1	6

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
北崎小	6	12	12	20	22	20	92
	1	1	1	1	1	1	6
(西浦分校)	12	7					19
	1	1					2
住吉小	25	20	20	21	22	28	136
	1	1	1	1	1	1	6
今津小	19	23	21	23	29	23	138
	1	1	1	1	1	1	6
舞鶴小	25	23	23	22	36	24	153
	1	1	1	1	1	1	6
早良小	26	32	32	26	33	27	176
	1	1	1	1	1	1	6
春吉小	23	42	28	26	26	23	168
	1	2	1	1	1	1	7
東住吉小	49	31	27	32	23	29	191
	2	1	1	1	1	1	7

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
簀子小	41	28	32	25	36	29	191
	2	1	1	1	1	1	7
堅粕小	20	37	36	36	31	29	189
	1	2	2	1	1	1	8
千代小	50	28	36	38	40	30	222
	2	1	2	1	1	1	8
城浜小	38	32	39	39	31	49	228
	2	1	2	1	1	2	9
照葉小	67	66	33	45	36	23	270
	2	2	1	2	1	1	9
堤丘小	42	39	46	36	43	53	259
	2	2	2	1	2	2	11
東光小	49	45	44	47	43	38	266
	2	2	2	2	2	1	11
有住小	61	59	29	45	42	43	279
	2	2	1	2	2	2	11

※特別支援教育学級を除く。

## 複式学級について

### 【複式学級とは】

小学校では、2つの学年を合わせた児童数が16人以下（1年生を含む場合は8人以下）のときは、例えば「3年生と4年生の学級」のように、複数の学年で学級を編制しなければならない。

### 【複式学級の学習指導の特徴】

複数の学年で編制された学級を、一人の担任が指導するため、具体的な学習指導では、次のような指導を行う必要がある。

- ①教員が同じ時間の中で、二つの学年の学習の流れをずらして設定し、両方の学年を交互に指導を行う
- ②両方の学年で類似した内容を同時に指導する

（例）3年生の「棒グラフ」と4年生の「折れ線グラフ」

など

## 小規模校の学級編制(中学校)

上段 生徒数  
下段 学級数

(平成20年5月1日現在)

	1年	2年	3年	計
玄界中	1	4	3	8
	1	1	1	3
小呂中	2	1	6	9
	1	1	1	3
能古中	12	18	12	42
	1	1	1	3
照葉中	32	17	7	56
	1	1	1	3
北崎中	24	14	25	63
	1	1	1	3
千代中	42	45	30	117
	2	2	1	5
福岡中	45	44	47	136
	2	2	2	6

	1年	2年	3年	計
東光中	56	57	66	179
	2	2	2	6
志賀中	64	56	66	186
	2	2	2	6
東住吉中	57	72	58	187
	2	2	2	6
住吉中	58	69	64	191
	2	2	2	6
舞鶴中	75	60	64	199
	2	2	2	6
壱岐丘中	70	64	85	219
	2	2	3	7
博多中	89	88	72	249
	3	3	2	8

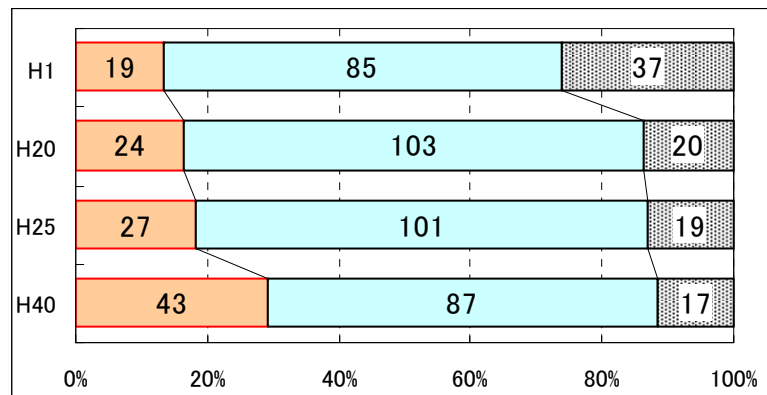
	1年	2年	3年	計
城香中	90	113	106	309
	3	3	3	9
吉塚中	98	110	113	321
	3	3	3	9
警固中	127	100	108	335
	4	3	3	10
早良中	107	110	122	339
	3	3	4	10
松崎中	130	109	112	351
	4	3	3	10
梅林中	123	126	117	366
	4	4	3	11
西福岡中	127	151	117	395
	4	4	3	11

※特別支援教育学級を除く。

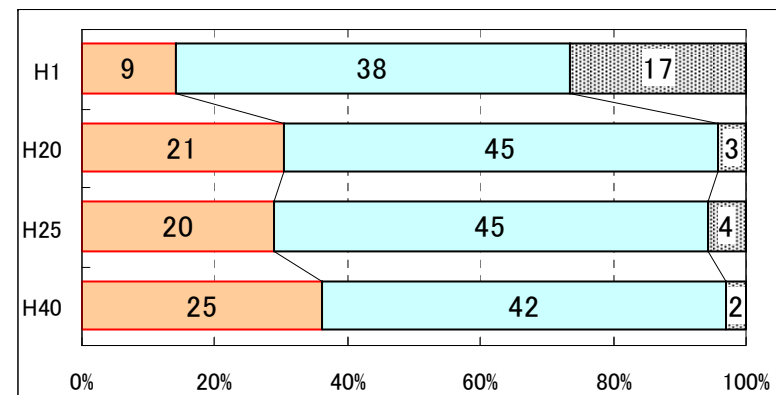
# 規模別に見た学校数の推移①

■ : 11学級以下, ■ : 12~24学級, ■ : 25学級以上

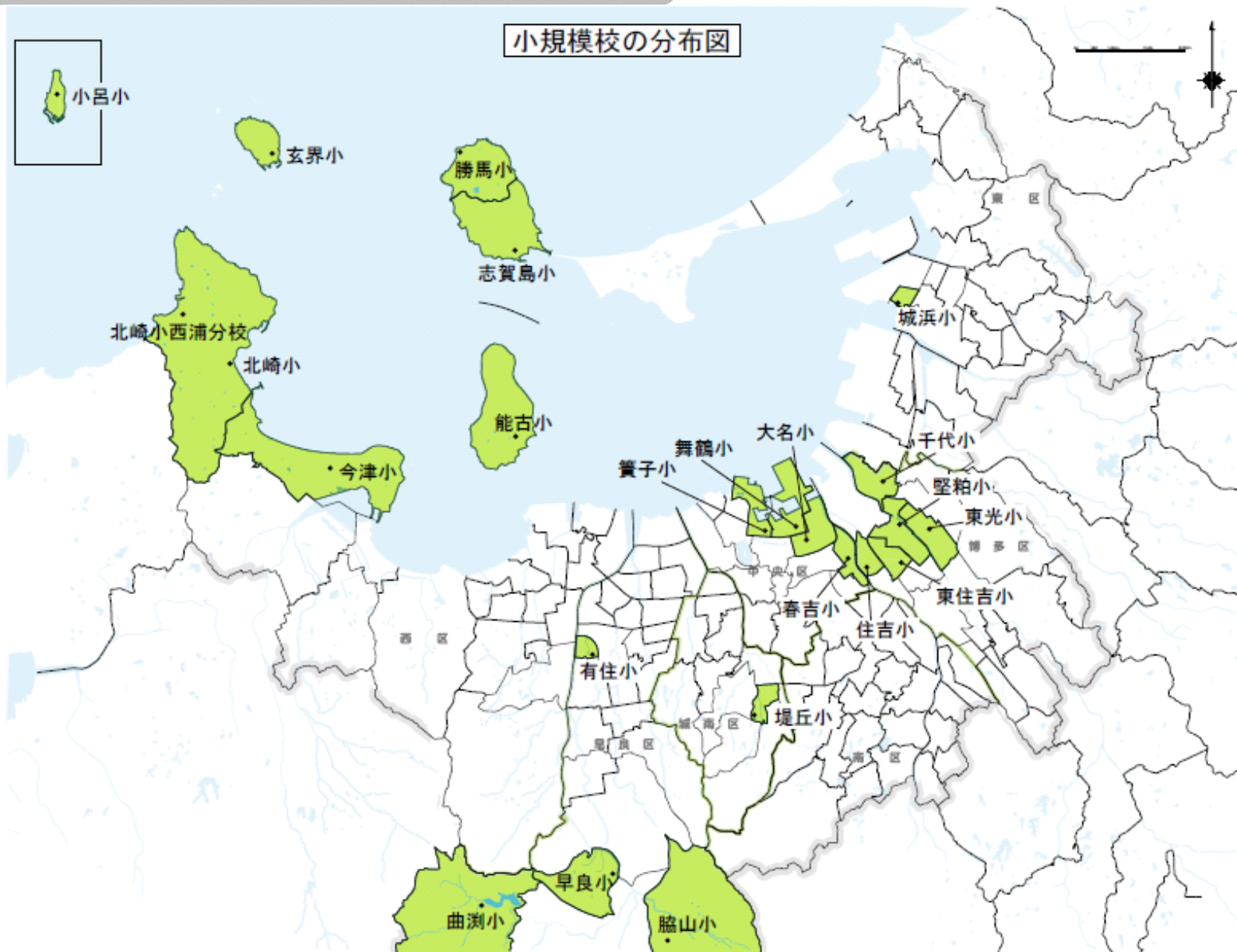
## 全市:小学校



## 全市:中学校



# 小規模小学校的分布

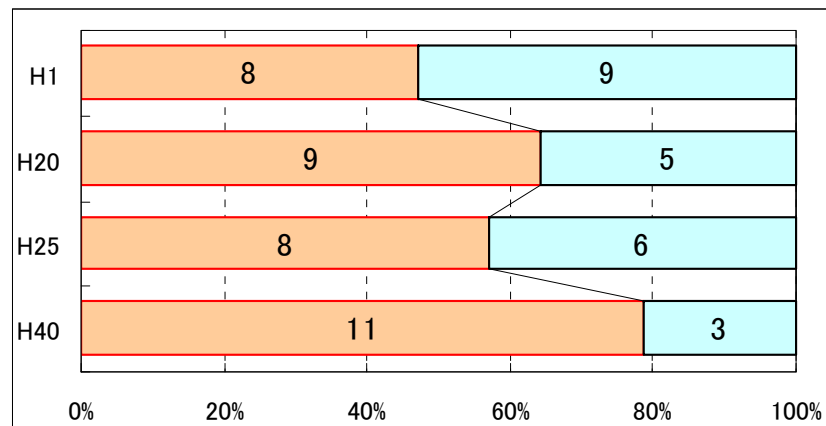




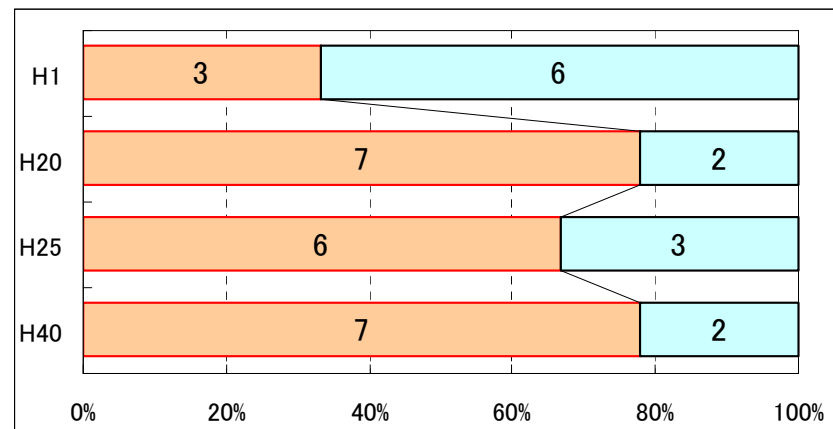
## 規模別に見た学校数の推移②

■ : 11学級以下, ■ : 12~24学級, ■ : 25学級以上

### 都心部:小学校



### 都心部:中学校



## 児童生徒数の今後の見通しについて

	H7	H7→H17 増減率	H17
全市人口	1,284,795	9.1%	1,401,279
うち15歳未満	205,266	-8.4%	187,960

H17→H40 増減率	H40
4.8%	1,467,853
-9.2%	170,738

小規模校区の人口	H7	H7→H17 増減率	H17
小規模校区の人口	100,738	9.1%	109,885
うち15歳未満	12,235	-30.6%	8,493

出典：国勢調査，福岡市の将来人口予測

## 人口推移と学校の現状のまとめ

**福岡市の総人口は平成35年ごろまで増加する。**

しかし、

**15歳未満の人口は減少傾向**にある。

〔 自然動態(出生・死亡)では、合計特殊出生率の低下により出生数が減少している。  
社会動態(転出入)では、子どものいる世帯は増加していない。 〕

そのため、

**児童生徒数は20年後にはピーク時の6割程度まで減少**する。

→**児童生徒数の回復は厳しい。**